

(6) 現代中国における就業状況と労働人口変化の傾向

社会科学院人口与劳动经济研究所 张 翼

一、中国の就業問題は最も困難な状況から抜け出した

2004年に都市の就業者数が新たに980万人増え、予測目標の109%に達成した(計画より80万人増加);失業者の中で510万人が再雇用され、年度目標の102%に達成した。その中で“4050”(40~50才の中高年者)が140万人再雇用され、年度目標の140%に達成した。就業と失業のコントロールが最もよくなされた一年である。

沿海地域では、“出稼ぎ労働者不足”が現れ、内陸でも、労働力不足に直面する地域が出てきた。

都市の登録失業率は4.2%まで下がり、2003年より0.1パーセント減じた。

二、将来の労働力供給による圧力が弱くなる

数年先には、我が国の労働力供給スピードが急速に低下する。16才人口が2~3年以内に2000万以下まで減少し、毎年新たに増加する労働人口も2~3年以内に1000万以下まで減り、また、長期間にわたって、800~900万の水準が維持されると考えられる。これは労働人口の平均年齢が急速に上昇することを意味する一方、青壮年労働者の供給量が次第に低下することを前もって示している——高校と大学の学生募集の拡大によって、青壮年労働力の供給不足が深刻になり、それによって、都市の低層労働者の賃金が次第に増加することが考えられる。

グローバリゼーションの中で、我が国の人口によって提供されてきた“利潤”チャンスも、インド、マレーシア、フィリピンなどの“人口利潤”の増力によって少なくなり、中国の世界労働密集型市場における競争優位は次第になくなる。

流動人口、特に農村から都市への出稼ぎ人口が歴大な数になり、その総数が1億人を超えているが、都市ではその疎外の問題が存在している。労働者化された農民たちがまともな市民として考えられず、都市にとけ込むこともできないため、社会構造の断層が生じ、この人たちは次第に「都市の中の“村人”」となる。彼らは「出稼ぎの“渡り鳥”」で、青春と健康を都市の発展に捧げ、40才以後に農村に帰る。

統計上、農村には1.5億の余剰労働力が存在していることがよく知られている。しかし、これらの労働力は農村から出ることがきわめて困難である。農業生産の現場では丹念な耕作が行なわれ、農民の分散経営方式があるので、多くの労働力が必要とされ、また、35才以上の農村労働力は都市で仕事を見つけるのが困難であることも(多くの農村の余剰労働力の)その原因となっている。最近の多くの調査によれば、農民労働者の80%が18~35才である。

今後数年以降の労働力供給総量の減少は、失業率の自動的な低下を意味するものではない。失業問題は長期にわたって我が国の発展を制約することとなる。労働市場において競争力を欠く人たちは、次第に社会の低層まで沈下し、都市と農村の貧困人口となる。多くの農村労働者が都市で仕事を見つける一方、都市労働者は高い失業率を示すこととなるが、このように就業と失業には非常に複雑な社会要素が含まれる。中国の都市において、最低生活保障を受ける人が2000万を超え、農村における低収入人口も8000万近くにでくことが最近の研究によって明らかになっている。